

平成29年度 宮城県石巻西高等学校  
**学校関係者評価委員会資料**

1 本年度の重点目標

【授業改善】

**学び合いの授業  
 表現させる授業**

【積極的生徒指導】

**自主的な部活動  
 自主的な特別活動**

【貢献活動】

**国際理解・貢献活動  
 防災交流活動**

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

【総務関係:保護者】

- Q1 学校として地域や伝統などに根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる
- Q2 お子様の学校生活は充実している
- Q3 保護者に対して、災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている
- Q4 保護者に対して、学校便りなどによって、学校の情報は適切に伝えられている
- Q5 本校のメール配信は役に立っている
- Q6 PTA活動は活発に行われている

【総務関係:生徒】

- Q1 学校として、地域や伝統などに根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる
- Q2 自分にとって、学校生活は充実している
- Q3 生徒に対して、災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている
- Q4 保護者に対して、学校便りなどによって、学校の情報は適切に伝えられている
- Q5 本校のメール配信は役に立っている

A 達成している      B おおよそ達成している      C あまり達成していない      D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価							
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	A						
総務関係	① 特色ある学校づくりについて  <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>保護者</td> <td>生徒</td> <td>職員</td> </tr> <tr> <td>79</td> <td>63</td> <td>86</td> </tr> </table>	保護者	生徒	職員	79	63	86	B	回答A・Bの割合は、保護者[79%], 生徒[62%], 職員[86%]で、生徒の割合が低い。今年度も被災地で行われる高校生による第2回国際フォーラムを実施した。今年度は、避難訓練、防災体験学習と生徒達と関わり合える場を増やすなどの改善をしたが、生徒へ浸透するまでにはいかなかった。次年度もその他の行事関係についても改善・工夫が必要である。	A	A
	保護者	生徒	職員								
	79	63	86								
	② 学校生活の充実について  <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>保護者</td> <td>生徒</td> <td>職員</td> </tr> <tr> <td>89</td> <td>79</td> <td>95</td> </tr> </table>	保護者	生徒	職員	89	79	95	A	回答A・Bの割合は、保護者[89%], 生徒[79%], 職員[95%]であった。評価としては良好な評価をいただいているが、なお、充実した教育活動を目指す。	A	A
	保護者	生徒	職員								
	89	79	95								
③ 災害・非常時の対応について  <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>保護者</td> <td>生徒</td> <td>職員</td> </tr> <tr> <td>84</td> <td>87</td> <td>98</td> </tr> </table>	保護者	生徒	職員	84	87	98	A	回答A・Bの割合は、保護者[84%], 生徒[87%], 職員[95%]であった。防災カレンダーが果たす役割が大きいと考えられる。また、防災体験学習の効果も徐々に浸透してきているものとする。	A	A	
保護者	生徒	職員									
84	87	98									
④ 学校情報の伝達について  <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>保護者</td> <td>生徒</td> <td>職員</td> </tr> <tr> <td>88</td> <td>86</td> <td>95</td> </tr> </table>	保護者	生徒	職員	88	86	95	A	回答A・Bの割合は、保護者[88%], 生徒[86%], 職員[95%]であった。石西高実況中継が大きな役割を果たしている。次年度も継続して学校の情報を伝えていく。	A	A	
保護者	生徒	職員									
88	86	95									
⑤ メール配信について  <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>保護者</td> <td>生徒</td> <td>職員</td> </tr> <tr> <td>90</td> <td>74</td> <td>100</td> </tr> </table>	保護者	生徒	職員	90	74	100	A	回答A・Bの割合は、保護者[90%], 生徒[74%], 職員[100%]で、生徒の割合がやや低い。台風等の自然災害に対しては即断即決できるものではないこと、そして、そのような状況下で個々人が心掛けておくべきことを生徒に考えさせ、備えさせる。	A	A	
保護者	生徒	職員									
90	74	100									
⑥ PTA活動の活発化について  <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>保護者</td> <td>生徒</td> <td>職員</td> </tr> <tr> <td>81</td> <td></td> <td>89</td> </tr> </table>	保護者	生徒	職員	81		89	A	回答A・Bの割合は、保護者[81%], 職員[89%]であった。PTA役員を中心とした会員(保護者)の方々のご協力のおかげである。今後も学校と家庭との間で近い関係を築いていく。	A	A	
保護者	生徒	職員									
81		89									
学校関係者評価者による意見	特になし										

【学習指導:保護者】

- Q7 お子様の学ぶ意欲を引き出し、学力を身に付けられるような授業が行われている  
 Q8 外部講師の講演や他国の人々との交流などの国際理解教育を通して、異文化理解が深まっている  
 Q9 科目選択や学習の取り組み、評価規定の確認に関して、シラバス(学習の手引き)が活用されている  
 Q10 本校の教育課程や選択科目はお子さんの進路に適している

【学習指導:生徒】

- Q6 生徒にとって、学ぶ意欲を引き出し、学力を身に付けられるような授業が行われている  
 Q7 外部講師の講演や他国の人々との交流などの国際理解教育を通して、異文化理解が深まっている  
 Q8 科目選択や学習の取り組み、評価規定の確認に関して、シラバス(学習の手引き)が活用されている  
 Q9 本校の教育課程や選択科目は自分の進路に適している

A 達成している      B おおよそ達成している      C あまり達成していない      D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学習指導	① 学ぶ意欲を引き出す授業について  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">                     保護者 生徒 職員                      76 60 88                 </div>	B	60%が肯定をしている状況である。学年別に分析をすると、学年の進行に従って肯定する割合が上がってきているようだ。本校のいわゆるアクティブラーニングやICTに対する先生方の意識は非常に高い。その積み重ねを如何に有効に活用するかが、これからの課題である。 授業理解については、「みやぎ学力状況調査」の結果から、昨年度に比べて、2年生は向上しているが、1年生については低下した。原因について各教科で検討を頂き、対策を実行して頂いている。また、学習時間に関してはわずかではあるが、向上しているのので、この流れを次年度につなげていきたい。	A	A
	② 国際理解教育について  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">                     保護者 生徒 職員                      77 75 79                 </div>	A	「教務」というよりは総合的な学習に関する委員会が中心となって進めている。国際理解教育についての理解度は、昨年の77%から75%と高い割合で推移しているため、次年度についても同様に計画を頂き、サポートをしていきたいと考える。	A	A
	③ シラバスの活用について  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">                     保護者 生徒 職員                      75 52 70                 </div>	C	シラバスについては、科目選択や学習の取り組みに活用されている割合が52%とまだまだ低いので、より一層活用していけるように研究していきたい。1・2年生は科目選択の際にかなり活用するのだが、3年生になると活用する場面が少なくなり、このようなデータになるようだ。	A	A
	④ 教育課程・選択科目について  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">                     保護者 生徒 職員                      80 76 95                 </div>	B	教育課程や選択科目については昨年度の71%から今年度76%と数字が上がってきている。現行の教育課程・選択科目は概ね生徒の進路状況に適している状態と考えられる。但し、毎年文理選択ミスにより3年で困る生徒が出てきており、1年から2年への文理選択をよりしっかりと考えさせていきたい。	A	A
学校関係者評価者による意見	①シラバスの内容はわかりづらく、将来像が見えてこない。授業等で利用し、生徒へのフィードバックは行われているのか。また、総合的な学習の時間の中で選択科目を説明するにあたり、科目を選択する時期が早いのではないか。 ②電子黒板等の導入など、ICTを積極的に進めて欲しい。				

- Q11 お子様の進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている  
 Q12 「総合的な学習の時間」などにおいて、将来へ向けての進路研究が適切に行われている  
 Q13 課外講習は、生徒の進路希望実現のために役立っている  
 Q14 進路に関する情報提供が適切に行われている

【進路指導:生徒】

- Q10 生徒にとって、進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている  
 Q11 「総合的な学習の時間」などにおいて、将来へ向けての進路研究が適切に行われている  
 Q12 課外講習は、進路希望実現のために役立っている  
 Q13 「進路の手引」は、役に立っている  
 Q14 各種進路行事(進路講演会・進路ガイダンス・オータムセミナー等)は進路決定の役に立っている  
 Q15 進路に関する情報提供が適切に行われている

A 達成している      B おおよそ達成している      C あまり達成していない      D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
進路指導	① 進路目標の明確化について 保護者 生徒 職員 74 74 93	B	生徒保護者とも7割をこえる肯定的評価をいただいている。次年度も、より自発的な活動を通し、生徒の主体性を育成するような機会を設けたい。	A	A
	② 進路研究の適切さについて 保護者 生徒 職員 78 69 79	B	他行事との関係で、進路研究の継続性が途切れたり、時間そのものを持ってないという昨年度の反省を生かしながら今年度実施したので、適切に行うことができた。	A	A
	③ 課外講習について 保護者 生徒 職員 71 69 79	B	いずれの学年も順調に進めることができた。次年度も可能な限り生徒のニーズにあった講習ができるよう、各教科と連携していきたい。	A	A
	④ 「進路の手引き」の活用について 保護者 生徒 職員 55 63	C	総合的な学習のなかで、手引きを使用した時間を設定したものの、年間を通しての活用には至らなかった。内容は非常に良いものなので、先生方には適宜活用していただきたい。	A	A
	⑤ 進路行事について 保護者 生徒 職員 73 86	B	各行事とも目的を達成したものになっていたが、細かい点において改善の必要性も感じられた。次年度にむけ見直しをし、より効果的なものに変えていきたい。	A	A
	⑥ 進路に関する情報提供の適切さについて 保護者 生徒 職員 69 74 91	B	年度初めに「進路室見学」を実施し、生徒が情報収集できるような環境の整備に努めた。しかし、実際の活用はまだ不十分であるので、情報提供はもちろんのこと、生徒自らが情報収集する力も育成していきたい。	A	A
学校関係者評価者による意見	特になし				

【生徒指導:保護者】

- Q15 生徒に対して、挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている
- Q16 学校として、いじめの問題に対する取組方針が保護者と共有されている
- Q17 学校として、部活動は活発に行われている
- Q18 学校として、生徒会活動は活発に行われている
- Q19 お子様にとって、有意義な学校行事がある
- Q20 交通ルール遵守の指導が行われている
- Q21 生活指導に関する情報(懲戒規程・普通自動車免許取得・各種講演会開催・長期休業中の心得など)が提供されている

【生徒指導:生徒】

- Q16 生徒にとって、挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている
- Q17 学校として、日頃からいじめの早期発見に取り組んでいる
- Q18 学校として、部活動は活発に行われている
- Q19 学校として、生徒会活動は活発に行われている
- Q20 自分にとって、有意義な学校行事がある
- Q21 交通ルール遵守の指導が行われている
- Q22 毎朝の週番集会は機能している

A 達成している      B おおよそ達成している      C あまり達成していない      D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価							
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ						
生徒指導	① 基本的な生活習慣の確立について <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr><td>保護者</td><td>生徒</td><td>職員</td></tr> <tr><td>85</td><td>77</td><td>88</td></tr> </table>	保護者	生徒	職員	85	77	88	B	運動等で挨拶できる生徒は増えている。しかし、その分できない生徒が目立つのも事実である。挨拶できない生徒に対しての指導をしていく。	A	A
	保護者	生徒	職員								
	85	77	88								
	② いじめ問題に対する早期発見と取り組みについて <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr><td>保護者</td><td>生徒</td><td>職員</td></tr> <tr><td>55</td><td>59</td><td>95</td></tr> </table>	保護者	生徒	職員	55	59	95	B	生徒、保護者に対して、いじめに対する取り組みを示していく。	A	A
	保護者	生徒	職員								
	55	59	95								
	③ 部活動の活発化について <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr><td>保護者</td><td>生徒</td><td>職員</td></tr> <tr><td>89</td><td>83</td><td>88</td></tr> </table>	保護者	生徒	職員	89	83	88	A	今年度の活動を継続していく。	A	A
	保護者	生徒	職員								
89	83	88									
④ 生徒会活動の活発化について <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr><td>保護者</td><td>生徒</td><td>職員</td></tr> <tr><td>87</td><td>79</td><td>74</td></tr> </table>	保護者	生徒	職員	87	79	74	B	生徒総会の在り方について、事前指導・準備に力を注ぐとともに、当事者意識を育む。	A	A	
保護者	生徒	職員									
87	79	74									
⑤ 学校行事について <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr><td>保護者</td><td>生徒</td><td>職員</td></tr> <tr><td>81</td><td>73</td><td>93</td></tr> </table>	保護者	生徒	職員	81	73	93	A	生徒の主体性を育むようにしていく。	A	A	
保護者	生徒	職員									
81	73	93									
⑥ 交通ルール遵守の指導について <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr><td>保護者</td><td>生徒</td><td>職員</td></tr> <tr><td>79</td><td>70</td><td>86</td></tr> </table>	保護者	生徒	職員	79	70	86	B	交通ルール・マナーについてのアンケートを実施しそれを基に具体的方策を考えたい。	A	A	
保護者	生徒	職員									
79	70	86									
⑦ 生活指導に関する情報提供について <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr><td>保護者</td><td>生徒</td><td>職員</td></tr> <tr><td>82</td><td></td><td>95</td></tr> </table>	保護者	生徒	職員	82		95	A	今後も提供していく。	A	A	
保護者	生徒	職員									
82		95									
⑧ 週番集会について <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr><td>保護者</td><td>生徒</td><td>職員</td></tr> <tr><td></td><td>80</td><td></td></tr> </table>	保護者	生徒	職員		80		A	生徒の自主性を育む機会としていく。	A	A	
保護者	生徒	職員									
	80										
学校関係者評価者による意見	①口頭での説明は理解できたが、前もって資料にも改善の方策を具体的に示していただきたかった。										

【保健厚生関係:保護者】

- Q22 学校として、生徒のケガや病気に適切に対応し、健康の保持増進を図っている  
 Q23 生徒に対して、教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができている  
 Q24 ゴみの分別処理・ゴミ拾いなどの校舎内外の清掃や環境美化の指導に取り組んでいる  
 Q25 「健康・安全」の意識を高めるために、「保健だより」や各種「検診」などの諸統計を定期的に発行している

【保健厚生関係:生徒】

- Q23 学校として、生徒のケガや病気に適切に対応し、健康の保持増進を図っている  
 Q24 生徒にとって、教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができている  
 Q25 ゴみの分別処理・ゴミ拾いなどの校舎内外の清掃や環境美化の指導に取り組んでいる  
 Q26 「健康・安全」の意識を高めるために、「保健だより」や各種「検診」などの諸統計を定期的に発行している

A 達成している      B おおよそ達成している      C あまり達成していない      D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価							
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ						
保健厚生	① 健康の保持増進について <table border="1" style="margin: 5px auto; width: 100px;"> <tr><td>保護者</td><td>生徒</td><td>職員</td></tr> <tr><td>88</td><td>79</td><td>100</td></tr> </table>	保護者	生徒	職員	88	79	100	A	体調不良やケガへの対応に加え、心身についての相談活動や受診勧告を行った。健康上の課題を焦点化し、情報提示の仕方も工夫して、生徒の自己管理力向上を図る。	A	A
	保護者	生徒	職員								
	88	79	100								
	② 教育相談について <table border="1" style="margin: 5px auto; width: 100px;"> <tr><td>保護者</td><td>生徒</td><td>職員</td></tr> <tr><td>78</td><td>82</td><td>100</td></tr> </table>	保護者	生徒	職員	78	82	100	B	生徒に加え保護者もSCにつなげ支援を進めているが、潜在的需要はまだある。▼ SCと教員や教員間の情報交換・連携をさらに深め、生徒と保護者のSCへの認識を改める働きかけを行い、利用を広める。	A	A
保護者	生徒	職員									
78	82	100									
③ 環境美化について <table border="1" style="margin: 5px auto; width: 100px;"> <tr><td>保護者</td><td>生徒</td><td>職員</td></tr> <tr><td>84</td><td>74</td><td>88</td></tr> </table>	保護者	生徒	職員	84	74	88	B	委員会活動や学年との連携により、環境美化についての啓発と実践を行った。私物や清掃用具の管理など、環境整備の基盤作りを進め、実践者としての意識を高めさせる。効率と負担を考慮して、分担区の改編を行う。	A	A	
保護者	生徒	職員									
84	74	88									
④ 「健康・安全」の意識向上のための取り組みについて <table border="1" style="margin: 5px auto; width: 100px;"> <tr><td>保護者</td><td>生徒</td><td>職員</td></tr> <tr><td>85</td><td>77</td><td>95</td></tr> </table>	保護者	生徒	職員	85	77	95	A	保健だよりや受診勧告を通じて、生徒、保護者の意識向上を図った。教員へ応急手当や各種疾病に関する情報提供を行った。健康上の課題を焦点化し、委員会活動なども活用して、意識向上を目指した働きかけを効果的に行う	A	A	
保護者	生徒	職員									
85	77	95									
学校関係者評価者による意見	特になし										

【図書関係:保護者】

Q26 「朝の読書」や「図書委員会便り」等で、読書に親しむ意識を高めている。

【図書関係:生徒】

Q27 「朝の読書」や「図書委員会便り」等で、読書に親しむ意識を高めている。

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
図書関係	① 読書指導について 保護者 89 生徒 80 職員 95	A	回答1・2の割合は、保護者[86%]、生徒[79%]、職員[91%]であった。多くの生徒が読書への親しみを感じていることを裏付けているが、クラスによって取り組みの悪さが見受けられる。限られた短い時間だけに、しっかりとした指導を行う。	A	A
学校関係者評価者による意見	特になし				

【事務関係:保護者】

Q27 校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている

【事務関係:生徒】

Q28 校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
事務関係	① 施設・設備の整備について 保護者 82 生徒 58 職員 95	B	施設・設備の整備は、予算内で対応可能なものは早期対応に努めております。また、事務室で見逃している修繕箇所など、周りの方からその都度情報をいただいております。なお、工事が必要になる大きな予算を伴うものについては、施設設備5年計画の中で優先順位を付けて県教委に要望しております。計画的に整備を進めてまいりたいと思いますので、今後ともご協力よろしくお願い致します。	A	A
学校関係者評価者による意見	① 今後は和式トイレを抵抗なく使用できる生徒が減少してくるので、洋式トイレへの交換が必要になってくるのではないかと。 ② 敷地内、校舎と修繕箇所が目につくが、なるべく早い段階で修繕してもらいたい。				

3 次年度の課題と改善方策

次年度の課題	改善方策
① シラバスの活用について	学校評価委員から「わかりづらい面が多い」というご指摘をいただき、このように感じている保護者は他にも少なからずいることが予想される。今後、保護者、生徒にも理解しやすい内容になるように検討を重ね、実際に授業を受ける生徒には、授業や総合的な学習の時間を活用し理解を深めていく。
② 進路の手引きについて	今年度も生徒に対する達成度は、低い水準に留まった。来年度は、生徒が活用しやすい内容に改訂し、総合的な学習等をとおして計画的に活用しやすい環境を整えていく。
③ いじめ問題の取り組みについて	今年度、校内でいじめが表面化する事案はなかったが、ネット関係で人間関係がこじれているという情報が時折入ってくるがあった。今後、アンケートを増やす、ホームページに取り組みを示すなど、常に緊張感を持って対応していく。